

2025年9月26日

日本原子力発電株式会社

敦賀発電所1号機 クリアランス対象物に係る
放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請の補正について

当社は、2016年9月13日、敦賀発電所1号機の運転・保守、廃止措置に伴って発生するクリアランス対象物に係る放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請書を原子力規制委員会に提出しました。

(2016年9月13日お知らせ済み)

その後、審査基準^{※1}及び規則^{※2}の制定を踏まえ、クリアランス対象物の変更及び測定・評価方法の変更を行い、本日、敦賀発電所1号機のクリアランス対象物に係る放射能濃度の測定及び評価方法の認可申請の補正書を原子力規制委員会に提出しました。

当社は、引き続き、原子力規制委員会の審査等に真摯に対応するとともに、安全確保を最優先に敦賀発電所1号機の廃止措置に取り組んでまいります。

※1：「放射能濃度についての確認を受けようとする物に含まれる放射性物質の放射能濃度の測定及び評価の方法に係る審査基準」（2019年9月制定）

※2：「工場等において用いた資材その他の物に含まれる放射性物質の放射能濃度が放射線による障害の防止のための措置を必要としないものであることの確認等に関する規則」（2020年8月制定）

添付資料：敦賀発電所1号機クリアランス申請の補正概要

以 上

敦賀発電所1号機 クリアランス申請の補正概要 (1/2)

添付資料

項目	申請時 (2016年9月)	今回補正 (2025年9月)	主な変更点
クリアランス対象物	【対象物】 ➤ 管理区域から発生したもの 【推定重量】 ➤ 2,900トン 【材質】 ➤ 炭素鋼、ステンレス鋼他	【対象物】 ➤ 制御棒駆動水圧制御ユニットのアク्यूムレータ※(シリンダ部)36体 【推定重量】 ➤ 3トン 【材質】 ➤ ステンレス鋼	➤ 対象物を特定せずプラント全体から発生したものを評価していたが、先行認可実績を踏まえ、対象物ごとの評価に変更
評価対象核種	【評価対象核種】 ➤ コバルト(Co-60)、セシウム(Cs-134, Cs-137)、トリチウム(H-3)等、計13核種についての放射能濃度を測定・評価	【評価対象核種】 ➤ コバルト(Co-60)、セシウム(Cs-137)、ユウロピウム(Eu-152)及び全 α 核種(Pu-239、Pu-241、Am-241)の計6核種についての放射能濃度を測定・評価	➤ 審査基準33核種の中から計算評価及び分析結果を踏まえ、評価対象核種を6核種に変更
測定・評価方法	➤ ガンマ線を放出する核種(コバルト(Co-60)、セシウム(Cs-134, Cs-137)等)は、ガンマ線を測定し、放射能濃度を評価 ➤ ガンマ線を放出しない核種の放射能濃度は、核種組成比又はサンプル分析結果の平均放射能濃度に基づいて評価	➤ ガンマ線を放出する核種(コバルト(Co-60)、セシウム(Cs-137)、ユウロピウム(Eu-152))は、ガンマ線を測定し、放射能濃度を評価 ➤ ガンマ線を放出しない全 α 核種の放射能濃度は、核種組成比を用いて評価	➤ 評価対象核種の見直しによる評価方法の変更
その他	➤ 旧規則で品質マネジメントシステムに関する記載は要求されていなかったが、本文及び添付資料に品質保証に関する事項を記載	➤ 本文十に品質マネジメントシステムに関する事項を記載	➤ 新たな審査基準・規則の制定に伴い記載

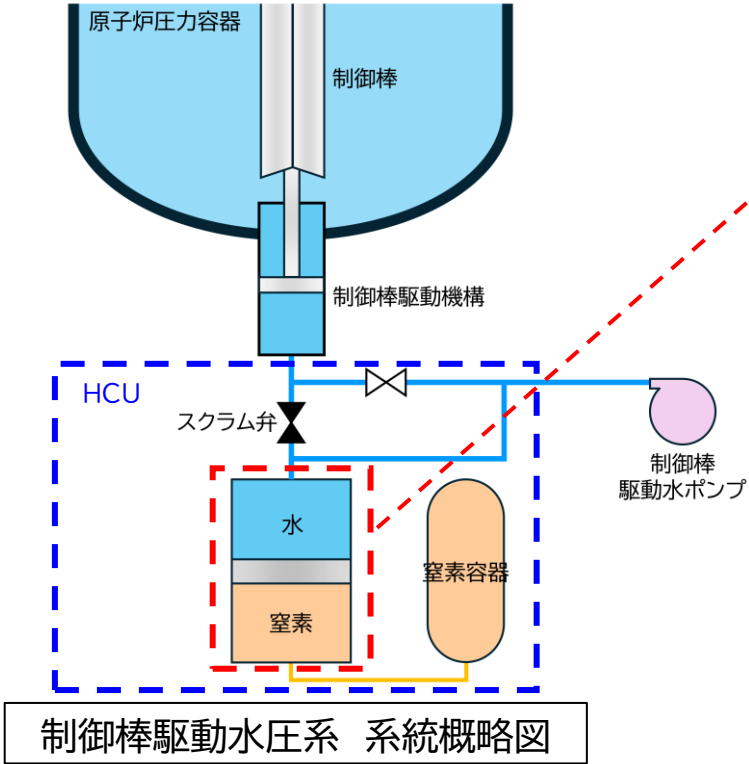
※制御棒駆動水圧制御ユニット(Hydraulic Control Unit)アク्यूムレータ:原子炉への制御棒の緊急挿入に必要な駆動水の圧力を蓄える装置

敦賀発電所1号機 クリアランス申請の補正概要（2/2）

クリアランス対象物の概要

●クリアランス対象物の種類及び推定される総重量

項目	内容
対象物	HCUアキュムレータ36体(シリンダ部)
申請重量	3トン(36体分)
材質	金属(ステンレス鋼)



<HCUアキュムレータ>

約1m

↑ 水側

アキュムレータ (対象物)

↓ 窒素側

全体写真

シリンダヘッド

水側

ピストン

窒素側

シリンダ

シリンダヘッド

断面概略図

:クリアランス対象範囲

